

会派視察報告書

大崎市議会 政務活動概要報告書
平成26年 3月25日 提出

1. 視察概要

会派名	公明党
視察者名	山田和明 横山悦子
日時	平成25年7月2日～4日(3日間)
視察先	1. 北海道恵庭市 2. 北海道旭川市 3. 北海道江別市
出席者	

2. 視察内容

視察項目	1. 公立保育所の民営化 2. 北彩都あさひかわ 3. 江別ノーザンフロンティア発電所
視察内容	<p>1. 北海道恵庭市「公立保育所の民営化」</p> <p>(1) 保育所入所待機児童の状況</p> <ul style="list-style-type: none">・道内の待機児童数は、1,856人(※4月1日現在の1,075人に比べ、781人増加)・待機児童発生市町村数 22市町・待機児童は1歳児が一番多い状況 <p>(2) 職員の配置</p> <p>現在、保育所における保育士の職員構成は、正規職員 27人に対して臨時職員 37人となっており、臨時職員が全体の約 58%を占めている。臨時職員は、地方公務員法の適用を受けるため6カ月雇用で更新1回しか認められておらず、再度任用するためには一定の空白期間を設けなければならない。このことが、保育の継続性を阻害する要因の一つとなっている。</p> <p>(3) 保育所の運営状況</p> <p>これまで、公立保育所が保育ニーズに応え、保育サービスの向上に努めてきたが、国においては、早急な保育体制の整備を目指して保育所設置及び運営等に関する規制を次々に緩和し、市区町村、社会福祉法人、学校法人、株式会社及びNPO法人等にも設置運営を可能とした。全国的にも保育事業の民間運営は増える傾向にあり、道内 35市の状況をみても民間運営の保育所(公設民間委託及び民設民営)は認可保育所の 82.7%を占めている。</p> <p>恵庭市においても、さくら保育園の大規模改修、なのはな保育園の改築に合わせ3歳未満児定員の拡大・産休明け保育・延長保育・一時保育を実施するため、保育所運営に民間の導入を図ってきた。</p> <p>今後も、市民の益々増大する多様なニーズに柔軟に対応することができ、保育サービスの質を確保しながらも、状況に即応する柔軟簡素でかつ効率的な運営が図れる民間導入は求められるものと考えている。</p> <p>(4) 保育園民営化ガイドラインの作成</p> <p>公立保育園の民営化を行っていく上での基本となるルールや基準、また、よりよい保育サービスを実施するための基本的な指針となるガイドラインを作成し、民営化を推進している。特に保護者や保育士等には回数を重ね説明会を実施している。</p> <p>(5) 所見・感想</p> <p>視察した恵庭市は、保育園民営化のガイドラインを作成し、ガイドラインの基本に則り保護者説明会、事業者選定委員会、市立保育園保育士説明会、社会福祉審議会などと何度も説明会を実施し、民営化を実施することとなった。</p> <p>そのため、市民が必要としている保育ニーズに応え、さらに市立保育園保育士の処遇改善なども実施できた。</p> <p>大崎市においても公立保育所が市民ニーズに応え、保育サービスに努めてきたが、市民の益々増大する多様な保育ニーズに対応することができ、保育サービスの</p>

質を確保しながらも、市立保育園保育士の非正規職員の処遇改善にも対応ができる。

そして、状況に即応する保育所の民営化については、行政改革の政策の一つでもあるが、先進地の状況を視察するなど、推進に努めていただきたいと思います。

2. 北海道旭川市「北彩都あさひかわ」

水と緑に輝き白い雪に覆われ、四季により変化が感じられる北の街旭川で、1996年より歴史や文学そして自然を見つめ直し、新たな街づくりが進められ、駅周辺整備事業（北彩都あさひかわ）により旭川駅が2011年11月23日に新しくなりました。

北海道を代表する駅舎建設にあたり、これまでには感じる事ができなかった駅の魅力を市民や旅行客に提供したいと考え、駅らしい駅の創造のため、河川空間や南北に配置される広場空間との調和を考慮しながら、駅舎デザインの検討に取り組んできた。ガラス張りの駅舎は、ガラスにより川と街を繋ぎ、街の中に自然が溶けこんでいる。また、木材で覆われた内部は、温もりとやさしさを感じられました。ホールはどこかヨーロッパ風でダイナミックな空間を創り出している。

生まれ変わる駅舎の内装壁材の下見板に名前を刻印する、旭川駅に名前を刻むプロジェクトが実施され、このプロジェクトにより全国から集まった1万人の名前が刻印されたピープル・ウォールが印象的でした。

駅舎内は回遊することができ、バリアフリー法に基づいた各種の設備等が設置され、人に優しい駅となっている。さらに2013年度には22,000㎡におよぶ駅前広場が完成する。

北彩都あさひかわのまちづくりは、これまで市民まちづくり見学会、計画説明会、シンポジウムを開催するなど様々な取り組みを通じて、市民のみなさんの意見を事業に反映するよう努めてきた。なお、事業説明会などは平成4年度から今までに約500回開催しているとのことで、多くの市民のみなさんの参画による計画づくりを基本としている。

3. 北海道江別市「江別ノーザンフロンティア発電所」

江別ノーザンフロンティア発電所は、江別市が「環境に優しい低炭素のまちづくり」の一環として事業者を公募し、その結果選定した道東電気株式会社、ソーラーフロンティア株式会社からなる江別メガソーラー発電事業連合体が建設を進めてきた大規模太陽光発電所です。八幡にある環境クリーンセンター敷地内の遊休未利用地約3.8ヘクタールに建設され、平成25年2月5日より営業運転を開始した。出力は1.5メガワット規模で、昨年7月1日に再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度が始まって以来、札幌圏内で初めて稼働している発電所です。

全国各地で展開される太陽光発電は、国の支援と売電条件の有利さから民間、自治体を問わず設置されている。宮城県内においても放射能セシウムを検出されている放牧場など、大規模用地において休止状態が続く中、メガソーラー設置は効果的と判断するものであり、私有地、市有地を問わず早急に検討すべきであると確信するものであります。

他会派との
合同実施

・有（会派名：大崎ニューネット）

以上